

# 機械学習を用いた対話システムの構築

## 1 はじめに

近年人工知能技術の発展により、人のように会話可能な対話システムに注目が集まっている。これまでは自然な会話の実現は困難であったが、自然言語処理技術の発展により文章生成の品質は大きく向上しており、優れたモデルが提案されている。今回はまず自動的に文章が生成できるモデルを用いて、人の考えた文章と計算機が生成した文章との違いについて考える。

本研究ではオープンソース化および日本語化されていない GPT-3 ではなく、前身の GPT-2 [1] を使い文章の破綻推定問題として、計算機に人の文章と自動生成の文章が識別可能かという実験と、GPT-2 の文章生成能力の確認実験をした。本研究の結果から GPT-2 の性能を確認し、対話システム構築の第一歩とする。

## 2 要素技術

### 2.1 Transformer

Transformer は再帰的ニューラルネットワーク (Recurrent Neural Network : RNN) を使わずに、Self-Attention を使って並列計算を可能にするモデルであり、GPT-2, BERT [2] をはじめとして様々なモデルに組み込まれている。

RNN は時系列に沿って逐次的に入力を計算する構造であるため並列計算ができず、GPU などを使っても計算時間の効率化が困難であるという欠点がある。

一方で Self-Attention は、シーケンス内の単語間の関係性に注目する。Transformer [3] は Self-Attention の計算を並列化することによって効率的な計算を可能とした。

### 2.2 GPT-2

Generative Pretrained Transformer 2 (GPT-2) [1] は特定のタスクに特化した数万の教師ありデータでファインチューニングが必要だった GPT, BERT [2] などのモデルと異なり、Transformer のデコーダ部分を利用し、大規模な言語コーパスで様々なタスクを学習する汎用的なモデルとして設計された。

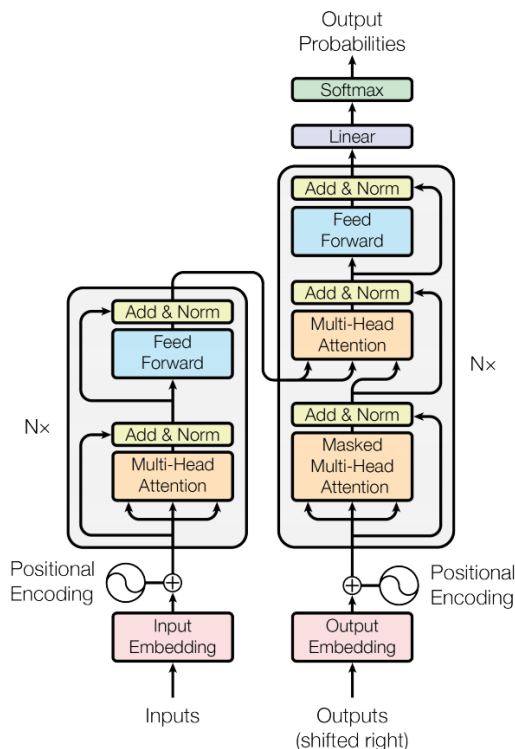


図 1: Transformer (文献 [3] の図 1 参照)

任意の長さの文章  $x$  をシンボルにしたシーケンスを  $(s_1, s_2, \dots, s_n)$  とする。文章  $x$  の同時確率は条件付確率の積に分解される。

$$p(x) = \prod_{i=1}^n p(s_i | s_1, \dots, s_{i-1}) \quad (1)$$

この条件付確率は、Transformer によって効率的に計算できる。

GPT-2 では、 $p(\text{output}|\text{input})$  を一般化して、 $p(\text{output}|\text{input}, \text{task})$  と表しタスクの種類も学習することで、特定の問題のためのファインチューニングなしで、1 つのモデルでも問題を解けるようにしている。表 1 に GPT-2 が対応できるタスクを示した。本研究では、GPT-2 の基本として Text Generation を使用した。

表 1: GPT-2 の回答できるタスクの一部

Task
Automatic Speech Recognition
Conversational
Feature Extraction
Fill Mask
Image Classification
Question Answering
Summarization
Text Classification
Text Generation
Token Classification
Translation
Zero Shot Classification

## 2.3 Byte Pair Encoding

Byte Pair Encoding (BPE) は高頻度の単語は単語全体を辞書に登録し、低頻度の単語は文字単位に分割する言語モデルにおける未知語処理手法である。

言語モデルは語彙サイズをハイパーパラメータとして設定するため、ニューラルモデルで学習されない未知語が存在する。未知語処理として、`<unk>` などの特殊トークンに置き換える方法と、単語をより細かく分割しサブワードにすることで語彙を少なくする方法がある。

BPE はデータ圧縮手法を言語モデルに応用しており、文字単位に単語を分解し、2 文字のペアの中で高頻度の要素を結合して 1 つのサブワードとする手順を繰り返すことで、単語を接頭辞や接尾辞などの意味のある単位に分解できる。

## 2.4 Manga 109

Manga 109 [4] は、漫画の学術研究への使用を目的として作成された研究用コミックデータセットである。1970 年代から 2010 年代に公開された、日本のプロ漫画家によって描かれた漫画 109 冊で構成されている。

## 2.5 BERT

BERT [2] は、2018 年に Google が発表した汎用言語モデルである。複数の双方向 Transformer を用いることで文脈を考慮することができるモデルとされている。

表 2: GPT-2 の設定

parameter	value
max length	50
top p	0.95
top k	60

表 3: BERT の設定

parameter	value
Optimizer	AdamW
lr	2e-5
loss	Cross Entropy
batch size	32
train data	12502
valid data	1389
test data	1543
epoch	20

る。各タスクに対してファインチューニングをすることでさまざまなタスクに柔軟に対応することができる。

事前学習には入力の一部の単語を [MASK] に置き換えてその元単語を予測するように訓練するタスク (Masked Language Model) と 2 文を入力としてその連続性を識別するように訓練するタスク (Next Sentence Prediction) が用意されている。本研究では、入力する文章の分類器として選んだ。

## 3 提案手法

人間が作成した文章と、GPT-2 が作成した文章のデータセットを作成し、BERT で作成者を推定する問題を解く。したがって実験は、生成実験と分類実験に分かれる。

### 3.1 生成実験

生成実験では、GPT-2 で文章を生成する。本実験では人間が作成した文章として Manga 109 中のセリフを利用した。

Manga109 のフキダシ単位のセリフデータ  $S_1, S_2, \dots, S_n$  に対して、GPT-2 に文  $S_i$  を入力し GPT-2 に文章を生成させ、推測したその次の文を  $S'_{i+1}$  とした。

表 4: GPT-2 の生成した文章の例

title		sentence
Akuhamu	$S_i$	我 梢つつじの名において命じる！
	$S_{i+1}$ (Human)	いでよ！ 悪魔っ
	$S'_{i+1}$ (GPT-2)	あなたは、我 の は を どうする ら れ ば いいのですか
YouchienBoueigumi	$S_i$	最近世間がぶっそうだわ
	$S_{i+1}$ (Human)	いつまでも人任せに安穩としていいのかしら…
	$S'_{i+1}$ (GPT-2)	．．．．． なんてこういうことになったのか知らないが、今から思えば大問題 ．．． こういうことをやっている人には何を言っても無駄なのか

©あくはむ/新居 さとし, ©幼稚園ぼうえい組/テンヤ

GPT-2 による生成では、生成文の句点までを 1 文とし、[SEP], [EOS] などのトークンは削除している。

### 3.2 データセット作成

生成実験のデータから、人と計算機の文章データセットを構築する。

連続する 2 文を人間の作成したデータを  $(S_i, S_{i+1})$ 、GPT-2 へ入力した文と推測した文を生成データ  $(S_i, S'_{i+1})$  と定義してデータセットを作成した。これらの 2 文は、入力の先頭・文の区切り・文の終わりをを表す [CLS], [SEP], [EOS] トークンで結合して BERT で分類するデータとした。

このとき漫画のセリフデータは文章間の場面が同じで意味が繋がっている必要があるが、意味を考慮した単位に文章を分割するのは難しい。そのため決められたフォーマットで、繋がりを持った文章として仮定しやすい 4 コマ漫画を対象として Manga109 中の 5 作品のデータを用いた。

### 3.3 分類実験

分類実験では作成した人と計算機の文章データセットを使用して、人の文章データのラベルを 1、計算機の生成データのラベルを 0 として BERT に入力し 2 値分類問題を解く。

## 4 実験

表 2, 表 3 は GPT-2 と BERT の実験パラメータである。GPT-2 の事前学習パラメータには rinna/japanese-gpt2-medium を、BERT の事前学習パラメータには東北大学が公開するモデルを使用した。

表 5: 分類実験の結果

	loss	accuracy
train	0.010	0.997
test	0.123	0.959
baseline	—	0.50

表 6: テストデータの混合行列

		予測	
		1	0
ラベル	1	753	39
	0	25	726

### 4.1 生成の結果

表 4 に GPT-2 による生成結果の例を示す。この結果より、BERT の学習するデータセットを作成した。

生成されたデータには漫画的特徴よりも、事前学習に含まれていたと思われる ブログ、掲示板、小説、SNS などの表現が多く生成されていた。表 4 のように漫画のセリフとしては、コマに入らないような比較的長い文章が生成される傾向にあった。

本実験では入力するプロンプトとして 1 文のみを入力したが、より前の文章も与えることで漫画の特徴を掴んだ文章生成ができることが考えられる。

### 4.2 分類の結果

表 5 は BERT による分類の学習結果を示す。2 値分類であるため正答率のベースラインは 0.5 であるが、テストデータで 0.959 という高い精度で分類できたと言える。この結果は BERT の文章の識別問題への有効性

表 7: BERT の誤識別例

input	label	pred
[CLS] 極道をやっとりましたが足を洗い [SEP] ホストクラブや寿司屋で働いてましたが [EOS]	1	0
[CLS] というふうには去年は笑ってられたけど [SEP] 今年はそうもいきませんね [EOS]	1	0
[CLS] いつもどっただですか !? [SEP] よっ [EOS]	1	0
[CLS] ふふん [SEP] 正しいんだけど何かちがう気がする…… [EOS]	1	0
[CLS] 大き .. さ .. など関 .. 係 .. ない [SEP] .. 事 .. だと言う事 .. [EOS]	0	1
[CLS] 立ちどまってもくれない [SEP] いや 立とうともしない [EOS]	0	1
[CLS] 極道の生態に親しむこのツアー [SEP] も 4 年目になる [EOS]	0	1
[CLS] 子供の頃から普通の男にはなるなと [SEP] 先生に言われていた [EOS]	0	1

◎徹さん/川口 憲吾, ◎OL ランチ/さんり ようこ, ◎高校の人達/葛原 兄

を示すとともに、本実験設定での GPT-2 と人間による文章との間には大きな違いがあることを示唆している。

表 6 は分類結果の混合行列、表 7 は BERT の分類の誤りの例である。表 6 の結果から、人間の文章を GPT-2 の文章と誤っている回数が多いことが分かる。

そこで表 7 の label=1, pred=0 となっている部分に着目すると、対話せずに [SEP] トークンを挟んで文章が続いているパターンがあった。GPT-2 の生成した文章に頻繁にあるパターンであるため、誤って識別したと考えられる。また 2 文のうち片方が、呼びかけなどで短すぎる場合もあり、この情報だけで判断するのは人間とっても困難であると思われる。

反対に GPT-2 の文章を人間の文章と誤っている例を見ると、文脈の短さも相まって一見自然な文章が生成されていると感じられた。特に最初の例では、時間的空白を表す文字が挟まっているにも関わらず、文体の特徴を捉えながら意味のつながった文章が出力されている。この例から考えると、GPT-2 でも一部自然な文章が生成できているということが確認できた。

## 5 まとめと今後の課題

本研究では人の考えた文章と GPT-2 が生成した文章との違いに注目し、人間と比較して GPT-2 が生成した文章の自然さの確認を実験した。文章の比較に BERT を利用して識別タスクを学習した。

結果 BERT は高い精度で人間と GPT-2 の文章を見分けることができるということがわかった。一方でこの識別に関してはデータセットに使用した漫画という媒体が持つ特有の文章形式と GPT-2 の学習したデータの違いが識別に少なくない影響があったと考えられる。また GPT-2 の文章を人間の文章と誤っている例

から GPT-2 が一部自然な文章生成ができることも確認できた。

今後の課題としては、GPT-3 を利用して同様の実験をし性能を比較することが挙げられる。また GPT-2 に与える入力文章を長くすることによって、GPT-2 がより自然な文章を出力できるようになる可能性もあるため、GPT-2 の設定を見直したい。

## 参考文献

- [1] Alec Radford, Jeffrey Wu, Rewon Child, David Luan, Dario Amodei, and Ilya Sutskever. Language models are unsupervised multitask learners. OpenAI blog, 1(8):9, 2019.
- [2] Jacob Devlin, Ming-Wei Chang, Kenton Lee, and Kristina Toutanova. Bert: Pre-training of deep bidirectional transformers for language understanding. arXiv preprint arXiv:1810.04805, 2018.
- [3] Ashish Vaswani, Noam Shazeer, Niki Parmar, Jakob Uszkoreit, Llion Jones, Aidan N. Gomez, Lukasz Kaiser, and Illia Polosukhin. Attention is all you need. CoRR, abs/1706.03762, 2017.
- [4] Yusuke Matsui, Kota Ito, Yuji Aramaki, Azuma Fujimoto, Toru Ogawa, Toshihiko Yamasaki, and Kiyoharu Aizawa. Sketch-based manga retrieval using manga109 dataset. Multimedia Tools and Applications, 76(20):21811–21838, 2017.